

かんどうっ てなあに

まきのーか

「あれ？どうしてみんなないてるのかなっ  
けっこんしてかなしくなっちゃっ たかな。  
けんとくんわけっ こんしきでみんながたく  
さんないていてあたしはそうおもいました。

七月二十日のとてもあついにけんとくん  
のけっ こんしきがありました。けんとくんは、  
おかあさんのいとこで、やさしいおにいちゃ  
んです。あたしは、けんとくんが大すきです。

たくさんあそんでくれて、かっこよくて、お  
もしろいからです。けっ こんするときいたと  
き、おかあさんやおとうさんはよろこんでい  
たけど、わたしはすこしかなしいような、さ  
みしいきもちになりました。でも、みんなが  
よろこんでいたので、このろの中にこっそり  
としまいました。  
けんとくんがおいろなおしでたいじょうし  
ます。いっしょにたいじょうするエスコート  
できょうだいのみきちやんとさきちやんがよ

ばれました。そのとき、キョウに二人がな  
 きました。まわりの人も、みんなないいま  
 した。でもよく見るとうれしそうにわら  
 ながらいました。みんなえがおでない  
 て、三人があるいているところをはくし  
 てみました。

さいし<sup>ま</sup>あたしはみんながいないのは  
 みんなもわたしとおなじで、けん<sup>と</sup>くん<sup>が</sup>け  
 こんするのがかなしくて、ない<sup>て</sup>いる<sup>の</sup>か  
 な。とおもいました。みんなは、エー<sup>ん</sup>とこ  
 えを出してない<sup>て</sup>なくて、しずか<sup>に</sup>ない<sup>て</sup>  
 いました。それに、けん<sup>と</sup>くん<sup>た</sup>ち<sup>を</sup>ず<sup>っ</sup>と  
 見ながら、あ<sup>ら</sup>つ<sup>て</sup>ない<sup>て</sup>いました。それ<sup>を</sup>  
 見て、うれしくてない<sup>て</sup>いる<sup>の</sup>かな。とおも  
 いました。おば<sup>ちゃん</sup>に  
 「なんでない<sup>て</sup>いる<sup>の</sup>？」  
 とさいたが  
 「かん<sup>ど</sup>うしてない<sup>て</sup>いる<sup>ん</sup>だよ」  
 とおしえてくれました。あたしは、みんなは  
 かん<sup>ど</sup>うしてない<sup>て</sup>いる<sup>ん</sup>だよ。とあかりま

した。

わたしがなくときは、おとうととけんかしたときが、おかあさんにおこられたとき、じぶんのいけんがとおらなかつたときによくなきます。そのときは、ワーと大きなこえでなきます。こころはとてもつめたくなります。わたしは、なくときは、おこつたりかなしいときだけじやなくて、うれしいなみだがあるんだかとおもいました。

いえにかえつてきてから、おかあさんとかいんどろがどんなきもちか、かんがえました。そうしたが、わたしもかんどうしたことがありませんでした。

わたしがかんどうしたのは、しまじろうのえいが見たときです。しまじろうのおかあさんは、いもうとのはなちやんのおせわがいそがしくて、しまじろうがつくつたひこうきをみてくれませんでした。そのときのしまじろうは、とてもかわいそうでした。さいごに、おかあさんがひこうきをみてくれて、なかなか

おりしていました。そのときに、しまじろう  
 がないていました。それを見て、しまじろう  
 がおかあさんとかなおりできてよかったな  
 とおもって、あたしもなみだが出ました。あ  
 たしはこれをかんどうだとおもいました。

このときわたしのころの中は、あつたか  
 くな<sup>?</sup>てオレンジいろになります。

なみだには、たくさんのし<sup>々</sup>るいがありま  
 す。あたしがなくときは、かなしいときやお  
 こ<sup>っ</sup>たときがおおいです。ーばんすきななみ

だは、うれしいときのかんどうのなみだであ  
 ります。こころがあたたくなるからです。かんどう  
 のなみだにきづいて、なみだがすこしすきに  
 なりました。